

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第27号
2021年1月18日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

新春を迎え会員の皆様のご健康とご多幸を お祈り申し上げます。

2020年を振り返り2021年を展望する



コロナに振り回された1年でした。中国の武漢で見つかり、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の頃までは、まだ対岸の火事でしたが瞬く間に日本中に広まり、安部首相の突然の全国一斉の休校要請で日常生活が一変しました。

2月29日に予定していた私たち9条の会・養老の設立4周年第5回総会も中止にせざるをえなくなりました。喫茶ピースガードや平和バスツアー、勉強会、懇親会等、人が集まる行事は全て中止となりました。他の平和団体や友好団体の行事もほとんどが中止か規模の縮小となってしまいました。集会やデモ行進等政治に対する直接の意思表示が困難になるなかでも5月には無法な検察庁法改正案を断念させることができました。ネット署名をはじめ国民の良識がコロナ禍の自粛時にも政治を動かしました。

9月には体調不良を理由に安部首相が突然の辞任、今は自分の意のままにならなくなった検察に「桜を見る会」関連で政治資金規正法違反の容疑で取り調べを受けました。

後を引き継いだ菅首相は「安倍政治の全てを引き継ぐ、憲法改正も引き継ぐ。」と公言しました。私達の平和憲法を守る運動も引き続き進めていかなければなりません。菅首相が最初に手を付けたのが、学術会議会員6名の任命拒否でした。どんな法律にもとづき、どんな理由で拒否したのか。国民の代表である国会にも一切の説明もせず、組織の改革問題にすり替えてしまおうとしています。6名は全て安倍政権時代の戦争法に反対した人達です。戦前の戦争に反対した人達に対する政府や特高警察の弾圧を思い起こさせるものです。これに対して多くの学会や国民が抗議の声をあげています。コロナ対応の無策、GOTTへの執着など国民の思いに背を向ける姿勢に発足時は70%だった支持率がたった3ヶ月で30%台へと急落しています。

さて昨年の2020年度の活動方針を振り返ると、結局人と接する行動や人が集まることが全くできませんでした。会報だけは2カ月に一度の発行を続けようとして5回の発行をすることができました。

まだコロナの先行きは見通せませんが、今年は出来るところから活動を再開させていくつもりです。菅内閣になっても憲法をないがしろにする政治はますます露骨になっています。お互い健康に気を付けながら、戦争しない国、平和憲法9条を守るため頑張りましょう。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪